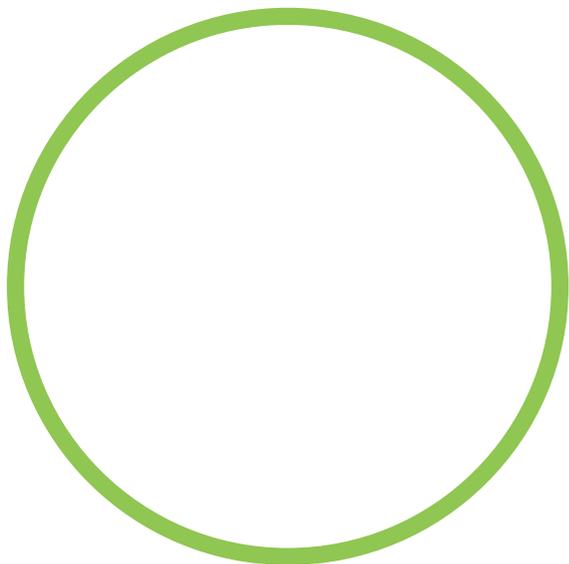
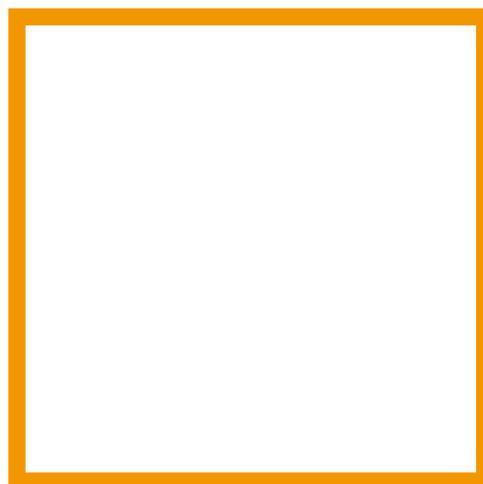


新たな 9つの シナリオ(案)



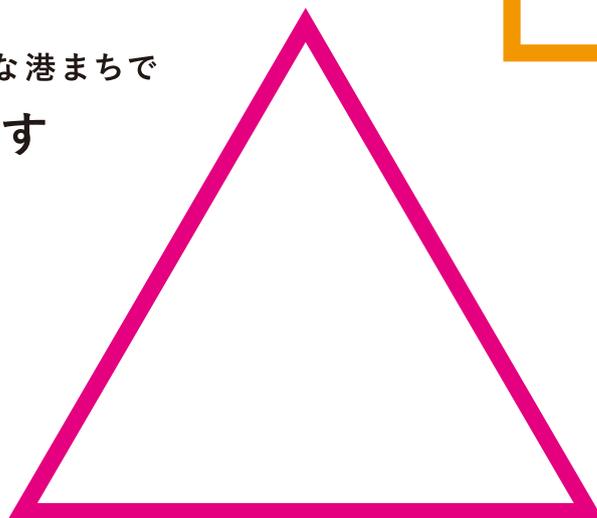
心地よく安心な港まちで

暮らす



みんなと港まちを

創る



魅力的でにぎやかな港まちに

集う

- ① 楽しく学び実践する
みなとまちBOSAI
- ② 暮らしの豊かさを育む
コミュニティ活動
- ③ 港まちならではの
空間の有効活用
- ④ 地域の特色を活かした
にぎわいづくり
- ⑤ アート&音楽を活用した
まちづくり
- ⑥ ガーデン埠頭と連携した
エリア一帯のにぎわいづくり
- ⑦ 港まち内外の人々をつなぐ
情報発信
- ⑧ 港まちに呼び込む
新たな風を
- ⑨ 人づくりを軸にした
協働まちづくり

○ 心地よく安心な港まちで暮らす

一人ひとりの関心を大切に、
港まちの日常的な暮らしを心地よくしていくことで、
みんなが安心できる港まちを目指します。

東日本大震災以降、防災・減災は日本中の人々の関心事となりました。海に面する港まちでは、高潮・津波・液状化など、この地域特有の事態への対策を講じる必要があります。また、発災時には、自助に加えて共助が求められるため、地域内の日常的なコミュニケーションが大切とされています。またさらに、日常的な暮らしや地域への愛着を育むことが、災害復興の推進力になるとも言われています。

そこで、港まちづくり協議会では、このような災害に対応する取り組みとして、防災・減災を楽しく学び実践する事業を推進し、合わせて各種のコミュニティ活動を支援し、地域におけるコミュニケーションの活性化を目指します。また、地域の中のさまざまな場所や空間に着目し、有効活用する取り組みを通して、港まちへの愛着を育みます。港まちに関わる一人ひとりの関心を大切にして、港まちの日常的な暮らしを心地よくしていくことで、みんなが安心できる港まちを目指します。

シナリ➤ 楽しく学び実践する ① みなとまちBOSAI

港まちでは、高潮・津波・液状化といった地域特有の事態への対応だけでなく、観光やビジネス等を目的とした多くの来訪者への対応も考慮しなければなりません。また、この地域が体験してきた伊勢湾台風などの過去の災害、それを乗り越えてきた地域の知恵にも学ぶことが大切だと考えます。防災の専門家や実際に被災地で活動されている方々にもアドバイスをいただきながら、楽しく学び実践する防災活動の総称を「みなとまちBOSAI」とし、一人ひとりの心構えを育んでいきます。

みんなとまちでなにをする？

- 町内会や学区を単位とした訓練が継続的に実施できるようにサポートします。
- 「トイレ」「家具固定」などテーマを絞った取組をします。
- 教育機関、周辺企業と連携した津波避難訓練、AED実習に取り組みます。
- 伊勢湾台風等の災害体験を記録し、次世代に引き継ぐ取組を実施します。
- 「港まちカルタ」などを用いた楽しく学べる取組を実施します。
- 防災・減災まちづくりに関する先進地区を目指し、関連する様々な情報の発信に努めます。また、この地域の屋間人口の多くを占める企業との連携も検討していきます。

シナリ➤ 暮らしの豊かさを育む ② コミュニティ活動

港まちの中には、和踊りや伝統芸能、アート、音楽といった文化的なコミュニティ活動が盛んです。また、子育てや高齢者支援などのテーマ型のコミュニティ活動も活発です。地域の中の日常的なコミュニケーションを活性化するために、各種のコミュニティ活動と協働し、多くの人々が楽しく関わり、つながりあえるような場づくりを広げていきます。一人ひとりの関心を大切に、港まちの日常を豊かで心地よいものにしていきます。

みんなとまちでなにをする？

- 子育て世代やシニア世代などが集まれるサロンづくりを支援します。
- 多世代・多文化交流を推進します。
- 新旧住民が知り合えるきっかけづくりを目指します。
- コミュニティ活動と協働して、「子育てするなら港まち!」と考える家族が増えることを目指します。
- 踊りやアート等の文化的なテーマを中心にしたコミュニティ活動と協働をして、文化を楽しく学べる風土づくりに貢献します。
- 江川線等でガーデニングを進めるコミュニティ活動と協働し、交流の場づくりを行います。
- 他にも、各種のテーマを掲げる公共的なコミュニティ活動に対して協働を検討していきます。

シナリ➤ 港まちならではの ③ 空間の有効活用

港まちのメインストリートである江川線は、電柱が地中化されているため、大きな空が望める気持ちのいい空間が広がっています。また、海に面する水辺空間には、港まちならではの潮風が漂う施設があります。観光、ビジネス、商店、住宅といった別々の機能を持った建物が混在する雑多な風景も他にはない特徴と言えます。それらの空間の価値を再考し、より心地よい環境となるように整備する、あるいは有効に活用していくことが重要です。これらを地域の資源として活かしていく方法を探ります。

みんなとまちでなにをする？

- 水辺空間の施設等の有効活用を図り、港まちのみなさんやビジネスパーソンが、心地よく過ごせるような空間として改善していくことを検討します。
- 港まちの拠点に設置された港まち文庫を有効活用し、まちのお気に入りスポット等でも読書の時間が楽しめるようにします。
- 旧・防潮壁を活用し、西築地小学校の児童が壁画を描くプロジェクトを推進します。
- 築地口商店街やコミュニティ道路を活用した定期市やイベントの開催を目指します。
- 港まちのお店を紹介するお店マップを作成するなど、地元商店の利用を促進していきます。

△ 魅力的でにぎやかな港まちに集う

港まちに集うみんなの力をあわせ、
港まちならではの魅力を活かした
にぎわいづくりを目指します。

港まちでは、みなと祭をはじめとした伝統行事を地域の人々が独自に盛り上げてきました。それらの魅力的な風土を活かし、地域の特色ある行事を活かし、地域の皆さんと一緒に進める魅力・にぎわいづくりを目指します。名古屋港周辺には、観光客やビジネス等を目的とした多くの来訪者がいますし、近年では、アッセンブリッジ・ナゴヤや花火などの新たなイベントへの来訪者も増えています。そうした来訪者に、港まちのさまざまな魅力を紹介し、街のファンを育てることも大切です。そもそも「名古屋の港まち」の原風景は、地域外からの数多くの人々を呼び込むことで生まれたものでした。現在の港まちに集う人々と共に、新たな魅力・にぎわいづくりを目指していきます。

④ 地域 の 特色 を 活か した にぎわい づくり

港まちの特色ある催事を大切に、その持続的発展に役立つサポートを検討していきます。地域の人々のさらなる参画を促すことはもちろんのこと、そこに集う人々同士の交流を活性化し、新たなネットワークへとつなげていきます。そのためには、地域外の人々、団体・NPO・事業者等の参入も積極的に促していきます。地域内外の人々がこうしたイベントの運営を担っていくことは、お互いに知り合う素晴らしい機会にもなるでしょう。このような交流を通して、地域に根づいた魅力的なにぎわいづくりを目指します。

みんなとまちでなにをする？

- 地元主体の地域イベントと連携し、港まちならではの魅力づくりに貢献します。
- 港まちで行われてきた既存イベント(地藏盆まつり、みなと祭前夜祭、セラーズマーケットなど)と連携し、ポットラックバザールなどの新たなイベントを実施します。
- みなと祭に、地域外からの参加者を迎える取り組みを実施し、みなと祭に新たな活力を呼び込みます。
- 港まちのヒト・モノ・コトを取り上げた着地型観光イベント「みなとA GO GO!」を開催します。
- 円頓寺商店街「パリ祭」等を参考に、「商店街」という枠組みを超えた築地口エリアのにぎわいを創出します。

⑤ アート & 音楽 を 活用 した まち づくり

港まちでは、時代に先駆けて、倉庫や街中の空き物件等を活用したデザインやアートのイベントが盛んに行われてきた歴史があります。そうした歴史に学び、アートさらには音楽といった文化的な取組やその創造性を、これからの港まちづくりの中にも積極的に取り入れていきます。2016年より始まったアートと音楽の祭典であるアッセンブリッジ・ナゴヤには、毎年多くの人々が訪れるようになっており、地域にも徐々に浸透しつつあります。芸術文化に親しむことをきっかけに、地域の中で、多様な人々を受け入れる寛容性を育むことができれば、より多くの人々を呼び寄せることができるようになるでしょう。

みんなとまちでなにをする？

- アッセンブリッジ・ナゴヤと連携し、まちなかを会場にしたアートや音楽のイベントを開催します。
- 音楽やアートを活用し、まちなかににぎわいを創出するきっかけづくりを試みます。
- アーティストを港まちに受け入れて、滞在制作や交流イベントを企画します。
- 港まちポットラックビルの3階を中心に、街中の空き店舗等を活用したギャラリーを運営します。

⑥ ガーデン 埠頭 と 連携 した エリ アー 帯 の にぎわい づくり

ガーデン埠頭には、名古屋港水族館をはじめとした魅力的な観光施設が多数存在しています。しかし、それだけでなく街区も含めたエリア帯で考えると、海・空・風といった自然、港湾・産業にまつわる歴史遺産、都市計画デザインと下町の雰囲気重なりあうまち並等々、魅力的な風景が浮かび上がってきます。ガーデン埠頭を訪れる人々には、そうしたこのエリア帯の魅力を紹介し、全体を回遊し楽しんでいただける取組を検討していきます。市民や専門家等々の多様な意見を参考にして、エリア帯のにぎわいづくりを目指します。

みんなとまちでなにをする？

- 名古屋港水族館、ポートビル、海洋博物館など名古屋港の観光施設と連携したにぎわいづくり事業を展開します。
- 花火大会、クリスマスイルミネーションなど、ガーデン埠頭で開催されるイベントと連携を試みます。
- ウォーキングイベント、水族館南側緑地でのヨガ教室など、ガーデン埠頭の空間を活かした取組を検討します。

□ みんなと港まちを創る

「なごやのみ(ん)なとまち」のコンセプトを軸にして、人々の共感と信頼を育みながら、みんなと一緒に取り組む協働まちづくりを目指します。

「なごやのみ(ん)なとまち」を目指すまちづくりの3つ目のテーマは「創る」です。港まちづくり協議会の拠点の名称は、「あり合わせ・持ち寄りの料理」を意味する「ポットラック」を、「今ある資源を活かし、場所や時間を共有し楽しむ」などの人間の創造的営為と解釈して、「Minatomachi POTLUCK BUILDING:港まちポットラックビル」と名付けました。港まちポットラックビルは、人々が互いの知恵や課題を持ち寄り、学びあいながら、創造的な解決を目指します。まちづくりの中に、多様な職能を持った人々の創造的思考:creative thinkingを積極的に取り入れ、それらをかけ合わせることは、人や土地の潜在的な可能性を引き出し、まちへの気づきや新たな魅力を見いだすきっかけを与えてくれるでしょう。

シナリ✕ 港まち内外の人々をつなぐ ⑦ 情報発信

毎月発行するニュースレター、年間の活動をまとめた報告書、WEBやSNS、そしてポットラック新聞・かわら版など、さまざまな種類の広報媒体を使った情報発信をしています。港まちでの活動を、より多くの方に知っていただくことが大切ですが、この地域の皆さんに知っていただくことは、とても重要です。そして、さらには、これらの情報発信を通して「地域内外の人々をつなぐ」ことが大きな目標でもあります。外からの視点で、街を見ると、今まで気がついていなかった魅力に出会い誇らしく思える。そんな小さな視点の交換を大切にしていきます。

みんなとまちでなにをする？

- ポットラック新聞、かわら版の継続発行をしていきます。
- WEBやSNSやニュースレターのポスティングに加えて、新聞折込なども織り交ぜながら多様な情報発信を行います。
- 港まちの皆さんや、その風景をテーマにした映像、画像等を活かし魅力的な情報発信にチャレンジします。

シナリ✕ 港まちに呼び込む ⑧ 新たな風を

「なごやのみ(ん)なとまち」の活動に関わりたい!参加したい!というアイデアや企画をもった担い手の参入を促進し、新たな風を呼び込む機会として、提案公募型事業を実施します。また、港まちの魅力的な空き店舗、空き物件を有効活用するために、それらを活かして新たな事業に挑戦する人々を積極的に受け入れていきます。みんなと一緒にまちづくりを進めていくアイデアやその実践を、新たな「港まちづくり」の取組としてブランディングしていきます。

みんなとまちでなにをする？

- 提案公募型事業を、港まちづくり協議会との協働の入り口として展開すると同時に、港まちづくり協議会そのものを広く周知するための広報の機会としても積極的に活用します。
- 課題やテーマを明確に提示し、その解決策やテーマに沿った提案を募集します。
- 空き店舗、空き物件を活用し、どのような事業が展開されることが望ましいのかについての地域のニーズを探り、専門家等のアドバイスを取り入れながら、事業者に向けて発信していきます。
- 築地公設市場等の公共空間を有効活用し、地域を活性化する事業を誘致、支援していきます。
- 不動産業等とも連携し、空き物件と入居希望の橋渡しを図り、魅力的な空き物件活用を促進します。

シナリ✕ 人づくりを軸にした ⑨ 協働まちづくり

街の底力や基礎体力として人づくりを大切にしていきます。港まちの各種の地域活動についても、行事の計画づくりや会議、PR等をサポートし、地域活動の自主的で継続的な運営を支援します。「み(ん)なとまちVISION BOOK」に描かれたテーマやシナリオを踏まえた、新たな「港まちづくり」を推進していくため、市民と行政の協働を人づくりを軸にして促進していきます。

みんなとまちでなにをする？

- 様々な担い手と協働をしながら、ビジョンに基づく新たな「港まちづくり」を促進し、その調整と進行管理を行います。また、地域の意向を取りまとめ、ビジョンとの整合性を図りながら、名古屋市に要望する事業を調整します。
- 港まちの皆さんや来訪者の声を集め、まちづくり事業に活かしていきます。
- 協働まちづくりのためのスキルアップ研修を行います。
- 港まちポットラックビルを活用し、人々の交流拠点とします。